

全国学力学習状況調査結果による本町の傾向

学力向上に向けて確かなあゆみ 授業改善 家庭学習の習慣化 が必要



今年度の全国学力・学習状況調査は、抽出校及び希望校により実施され、本町の全小学校6学年及び中学校3学年が参加し、国語と算数・数学の学習の到達度・理解度、学習意欲、学習方法、学習環境、生活の様子などに関する調査が行われました。

学力とは、本来、知識・技能、思考力・判断力、表現力、学ぶ意欲など総合的なものですが、今回は、こうした学力のうちテストで推し測ることが可能な特定の一部分を調査したものです。

【本町の児童・生徒の学力傾向】

●小・中学校ともに応用する力が高い傾向にあります。

■小学校では、前年度と比べて、国語・算数の「活用」の正答率は高くなり、全道・全国平均との差は縮まっていますが、国語・算数の「知識」については課題が残り、今後の指導では重点的に取り上げる必要があります。

■中学校では、国語の「活用」が全道平均を上回りながら全国平均を下回っていますが、他の国語の「知識」と数学の「知識」「活用」は、ともに全道・全国平均を上回る好成績です。



【生活習慣や学習習慣などの傾向】

●時間の使い方の見直しによる生活リズムの確立が必要です。

■児童・生徒ともに「近所の人へ会った時の挨拶」、「地域行事への参加」では、過去4年間、全道平均以上の高い数値が見られています。特に、挨拶に関しての意識の高さがうかがわれます。

■児童・生徒ともに「起床・就寝・睡眠時間」では比較的安定した傾向が見られますが、小学校では「テレビやビデオ・DVD等の視聴時間が長い」などの課題があります。

■過去3年間、家庭学習の時間が短いことや内容面（授業と関連した復習・予習・テストの間違い直しなどが少ないこと）が課題でしたが、本年度は中学校で全道・全国平均を上回る結果となりました。小学校でも、内容面での改善の兆しは見られてきていますので、今後は、時間の確保などで家庭との連携を強め一層の改善を進める必要があります。

■国語・算数（数学）の「好き」「授業理解」の質問については、本年度、2教科ともに好結果となり全道平均を上回る結果となりました。特に、中学校ではその傾向が顕著に表れています。

学校

課題解決に向けての取り組み

家庭

■授業改善…各学校では、自校の課題を明確にして児童・生徒の実態などに応じた「学校改善プラン」を策定します。魅力ある授業の展開を中心に繰り返し学習や補足的な学習などを取り入れ、基礎的・基本的な事項や学習習慣などの定着を図り、学力向上のための指導の充実を図っていきます。

■「かみしほろの健やかな育ち」の活用…「かみしほろの健やかな育ち」は、学校・家庭・地域が一体となった教育を推進する意図で制定されました。未来を担う子どもたちが望ましい生活習慣や学習習慣の確立ができるように、「早ね 早おき 朝ごはん」、「こつこつ続けよう 家庭学習」、「良い授業 分かる喜び子の自信」、「郷土で学ぶ 楽しい体験」などの標語の実現に向けて、それぞれの立場や役割を認識した支援活動が必要となります。

■家庭学習の習慣化…家庭では、学校と連携の下、上士幌町小中高連携教育推進会議が作成した『家庭学習の手引き』を参考にした家庭学習に取り組むことが重要となります。授業の予習・復習、テストの間違い直しなど、内容面の改善の兆しも見られてきているので、更に充実を図る必要があります。

また、各家庭の実態にあわせて家庭学習の時間を確保するなどの教育環境を整備し、生活習慣や学習習慣の確立に努めることが大切です。

※詳しいお問い合わせは、教育委員会(☎2-3014)土肥まで